

科 目 名	栄養教育論Ⅱ					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	堀 田 徳 子						
開 講 年 次	3	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	これまでのガイダンス中心の指導では、本人の気づきや自己決定、やる気を引き出すアプローチに欠けている。そのアプローチ方法である行動科学、カウンセリング技法の知識について教授し、症例への適応について検討することが本講義のねらいである。						
授 業 の 到達目標	1) 行動科学の理論やモデルについて理解し、概説できる 2) 行動変容技法について概説できる 3) 行動変容技法の具体例を説明できる 4) カウンセリングを行う際の倫理、環境について概説できる 5) カウンセリング技法について概説できる						
学 習 方 法	講義、ロールプレイによるカウンセリング技法の体験						
テキスト及 び参考書等	栄養カウンセリング論：小松啓子（講談社サイエンティフィク） 栄養教育論：丸山千寿子（南江堂）						
評 価 基 準 ・ 方 法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎					70
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	◎			15
受講者の発表							
授業への参加度		◎	○	○			15
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション（行動技法、カウンセリングの必要性について）						
第 2 週	行動科学の理論（学習の成り立ち：レスポナント学習、オペラント学習、行動技法）						
第 3 週	行動科学の基礎理論（健康信念モデル）						
第 4 週	行動科学の基礎理論（行動変容段階モデル）						
第 5 週	行動科学の基礎理論（計画的行動理論、自己効力感）						
第 6 週	行動科学の基礎理論（ストレスコーピング、ソーシャルサポート、コントロール所在）						
第 7 週	行動科学のまとめ（PP モデル）						
第 8 週	栄養カウンセリングの基礎知識（栄養カウンセリングを行う際の倫理、環境整備について、3つのコミュニケーション）						
第 9 週	カウンセリング技法（観察、言語的表現、非言語的表現、傾聴）						
第 10 週	カウンセリング技法（共感、受容、自己一致）						
第 11 週	カウンセリング技法（開かれた質問、閉ざされた質問、効果的沈黙）						
第 12 週	カウンセリング技法（繰り返し技法、要約）						
第 13 週	カウンセリング技法のまとめ、コーチング						
第 14 週	カウンセリングのまとめ						
第 15 週	総括						
第 16 週							
備 考	ロールプレイにおいては、技法が体験できるように真剣に取り組むこと。事前学習として行動科学・カウンセリング技法について調べ学習をすること。事後学習として、行動科学の症例をもう一度解きなおすこと。						